

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 函館市立銭亀沢中 学校 学級数 4

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目

標

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

本校生徒の授業態度は概ね良好ではあるが、定期テストや全国学力・学習状況調査の結果とのギャップを感じる。

生活習慣調査などを通して、家庭学習習慣が十分定着していないことがひとつの大きな原因に挙げられた。

2 取組の位置付け

研究部を中心に全職員で取り組んでいる。

3 取組の方法

① 全校で家庭学習定着に向けた取組を行っている。家庭学習ノート及び、家庭学習で行ったものを提出させ、教師が必要に応じて添削や学習方法のアドバイスを書いて返す。続けて出した生徒を学級通信などで紹介し、意欲を喚起する。

② テスト前1週間程から、学習委員会の取り組みとして放課後学習会を実施。担任が生徒に声をかけたりはするが、基本的に参加は任意。教科担当と連携して作成したテスト予想問題や各教科の問題集、各自が持ってきた問題を持ち寄り、必要に応じて教師に質問しながら1～2時間程度、学習する。1年生はほぼ全員が参加して学習していた。

③ 長期休業期間中に各学年1週間程度、1回につき2～3時間程度銭子屋を実施する。担任を中心に呼びかけるが、基本的に参加は任意。1年生は、8割～9割程度が参加して学習していた。

④ 2・3学期の始業式に、1・2年生で確認テストを実施。「やればできる」を実感させるのが最大の目的。前学期の終わりに各教科でテスト対象問題を配付。ここからそのまま出題。目標は80点以上。銭子屋で対象問題に取り組んでいる生徒もいた。

⑤ 年に2度、生徒対象に授業評価を実施。教師の授業評価と、生徒自身の授業態度を振り返る計18項目を評価する。教師の授業改善に役立てている。また、生徒の自己評価から授業への積極性などに課題が見られたので、2学期以降、各教科で改善に向けた取組を行う予定である。

⑥ 教育大ボランティアを活用し、数学の時間にTT的役割を果たしていただいた。後期も教育大と連携し、可能な範囲でボランティアをお願いする予定である。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

① 家庭学習定着に向けた取組

(成果) → 学級通信などで取組状況を逐次知らせるなどの工夫により、継続して意欲的に取り組む生徒が増えてきた。

② 学習委員会による放課後学習会及びテスト予想問題

(成果) → 多くの生徒が活用すると共に先生方も予想問題から出題するなどにより、より前向きにテストに臨む生徒が増えてきた。

③④「銭子屋」に加え、休み明けの確認テスト、学習委員会主催の学力コンクール

(成果) → ・目的意識を持って長期休業中を過ごす生徒が、少しずつではあるが増えている。

・「わかった」「できた」という実感と共に、新学期のスタートをスムーズに切ることにも寄与している。

○ 教育課程検証の方法

- ・生徒による授業評価について。前期と後期を比較することで、生徒の実態と変容を把握。実際の子どもの学びを通して、3学期の授業改善の方策を、各教科で立てている。合わせて、学習条規など共通の課題と考えられる点については、先生方で改めて共通理解・共通行動で臨むことを確認した。(1分前着席を促すため、それ以上前に教科担任は教室へ行くなど)
- ・保護者アンケートの項目については、昨年度より10項目とし、前半が学校の教育活動について、後半5項目が生徒の状況について、前半と後半がほぼ対応するような項目立てとしている。集計結果の公表については、わかりやすさを考えグラフ化した。保護者の記述、自己評価、学校関係者会議での意見を踏まえ、来年度につなげる予定である。